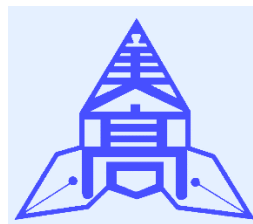


美深高校 HP 企画

美高ヒストリア



美高ヒストリアとは美深高校卒業生の方にインタビューを行い、美深高校の歴史を紐解き、継承・発展させていくプロジェクトです！

記念すべき令和3年度、第1回目は・・・

「株式会社園部商会 代表取締役 園部一正様」にインタビューをさせていただきました。

Q1 美深高校を卒業した年を教えてください。

A1 今日インタビューを受けるために調べてきたんだ。

卒業はね、48年前。だからひょっとしたら君たちのお父さん、お母さんが生まれていないかもしれない。1973年、16回卒業生。

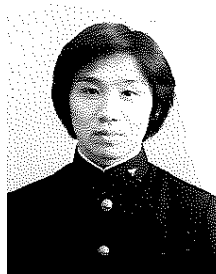


Q2 どんな高校生でしたか。

A2 どんな高校生？難しいね。今の君たちの学校生活と全く違う。一クラスは50名くらいいたからね。それが、まあ4クラスか。人口がそもそも1万4千人くらいいたわけだから。だから大変な時代に我々は育っているんだよね。ということはね、物心ついた時から、競争心が働いているわけさ。それはなぜかというと、ライバルが多いから。例えば、部活に入っても、簡単にレギュラーになれないわけでしょ？ということは相当努力しなきゃいけない。だから努力する術を子どものころに覚えるんだね。勉強も同じ。頑張りきるのが大変だけど、勉強すればどこの大学でも行けたわけだから。美深高校の卒業生はいろんな東京の大学にっている。東京六大学から、首都大学から、まあそういう先輩たちがいれば、「頑張れば、どんな大学も入れるんじゃないか」って錯覚が起きるわけさ。不思議なもんだね。その錯覚ってのが大事なわけさ。やる気が起きるから。だから勘違いから成功するのがだいたいだね。世の中で成功していたり、企業のトップにいたりするほとんどがスタートは勘違いからだね。だから君たちこそ頑張ってほしいんだよね。

Q3 当時の制服ってどんな感じですか。

A3 女性はネクタイにワンピース。男性は学生服。3年生とか面白い奴は学生服をオーダーメイドで作るの。先生にわかんないように、裏に竜が入るの。面白い時代だったね。



園部 一 正

↑ 当時の園部様



↑ 当時の校舎の様子

Q4 当時流行っていたことはありますか？

A4 高校時代？なんだろうね…。ゲームもないしね。君たちが当たり前のように扱っているものって、その時は全くないわけだから、我々生まれたときにテレビなかったからね。そんな古い話になっちゃうのさ。特に都会より地方は少し遅れてくるわけでしょ。一番最初にテレビが普及したのは東京オリンピックの年。昭和39年。そこでテレビ買える人、もしくはそれ以前にお金があって買った人。昭和39年に多くの人たちがテレビを買うようになったわけ。オリンピックが見たいから。

Q5 特に印象に残っている思い出は何ですか？

A5 さっき言ったスポーツだとか、まあ学校祭かな。学校祭は面白いよね。当時の先生方はなんでも許してくれたからね。ただね、学校祭になると、ほかの高校からずいぶん他校生が来る。そうするとトラブルになる可能性があるのさ。だからお互いの学校祭に行くときには最低限のエチケットを持ってこないと、だいたいケンカになるね。我々の時代には、中学卒業して働いてる子がたくさんいたの。すごく優秀で、この子だったら高校でも大学でも一流のところに行けるんじゃないかっていう子もたくさんいたの。その子たちが家庭の事情で、行けなかった時代なんだよね。中学卒業してそのまま就職せざるを得なかった、そういう子たちがちょっとかわいそうっていうかさ、本人はもっともったいたいことがたくさんあったんだけど、どうしても働かなきゃいけなかった、っていう寂しい時代でもあったんだよね。だから高校生活っていうのはある意味そこで高校行けた喜びを持った子たち。高校行かせてもらってよかったという、感謝の気持ちがあるわけさ。

Q6 次にご自身の現在についてお聞きします。今されているお仕事について教えてください。

A6 建築資材だとか土木資材だとか一般建築金物、そういうものを商売としてやってます。もうひとつはコスモ石油ってスタンドが美深にあるんだけど、そこでは石油の販売をしています。それと、クリアという会社を経営しています。それは美深町のいろんな施設、ほぼ9割方管理しています。体育館、パークゴルフ場、プール、ゴルフ打ちっぱなし練習場だとか、温泉の周りの管理、Com100の清掃管理したりする会社です。今60人くらい従業員がいて、そこは社員以外に、高齢者が働ける場のさ。まだ働きたいという人が働ける場所を我々が提供していかなければね。

Q7 美深高校の今の印象を教えてください。

A7 最近は何、校長先生がずいぶん明るいと思うね。声がでかいなとかね。それから、いい子たち多いんじゃないの？今の美深高校としてカラーを確立してさ、君たちの高校時代を作ってもらいたいと思うから。日々見てるわけではないけど、我々も高校を経験した身とするならば、高校時代の思い出っていうのはきっと70になっても80になってもあるから。生徒を見る限りいい子が多いと思うし、そういう子たちに、きっちり思い出を作って卒業してもらいたいよね。

Q8 では最後に、美高生にアドバイスをいただきたいのですがお願いします。

A8 とにかく、広い世界を見てほしいね。君たち、美深だとか名寄だとか、普段自分が動ける範囲って決まってるよね。時には東京とか九州へ旅行で行くかもしれないけど、普段の生活の中においては限られた環境や限られた距離感を持つての生活しかしてないわけでしょ？その中での価値観だけを信じるじゃなくて、できるだけ大きな世界を見る努力をする。そうするといずれ見えてくる。何も努力しなかったら外は見えてこないよ。大きなところを見れば見るほど経験すればするほど、やっぱり人間は強くなれるし、大きくなれるから、頑張ってもらいたいね。だから1回大きな町に行って美深に帰ってきてほしいな。そうすると人間大きくなって帰ってくるから。我々が美深町で会社や事業を起こしたのは、ほとんど美深町出身なんだよ。それは、みんな一旦出てる。東京だとか京都だとか大阪だとか九州だとか。そして、帰ってきて、それぞれ色んなものが蓄積されてるから役に立つよね。だから小さな環境だけにとらわれないで、チャンスがあれば行ってきてほしい。そして美深に帰ってきてほしい。今人口もついに4000人きったみたいなんだよね。やっぱり人がたくさんいるところに勝てなくなる可能性もあるから負けたくないためにも、美深魂、美深高校魂で頑張るしかない。地元に戻ってこなくても中央部で活躍している先輩たちもいるから、ぜひとも頑張してほしいね。自分の道は自分で切り開くしかないけど、頑張れば大丈夫だよ。美深で育ってるから無理だとか、美深高校だからできない、っていうことじゃあダメだよ。いくらでもできる。がんばればできる。

～インタビューを終えて～

生徒会顧問 島田美樹

はじめに、ご多用の身でありながら、高校生に貴重な機会を与えてくださった園部氏にお礼申し上げます。今回の企画に関わり、高校のみならず美深町の歴史に触れ、校舎ひとつ、木一本にも様々な人の想いが込められている事を実感しました。この道北の地で脈々と受け継がれてきた美深高校魂が、今後も生徒たちの誇りとして育っていきます。『三十年史』に「生徒諸君へ」という題で第6代校長 大橋 実先生(1972~1975)の言葉が載っていましたのでご紹介します。「1. 生まれたままで何の努力もせず、人間は尊い存在であるなどと思いたがらないでほしい。2. 自分にとって最も有意義な見解は、しばしば一番嫌いな議論の中にある。3. 虚偽の思想に取りつかれることが間違いなのではない。一つの考えにしがみつ়くことにこそ悲劇がある。」

最後に1時間にわたるインタビューを快くお受けいただいた園部氏と奥様に感謝申し上げます。

生徒会会計 滋野冬獅

はじめに、先日はお忙しいなか、私たちに貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。過去の学校では「人数が多かった」という根本的に違う特徴があり、その特徴が過去の学校の雰囲気や生徒の意識に影響していたと、話を聞いていくうちに感じました。特に「いじめをする奴もいれば、それを正面から正す人もいた」という話を聞いた時は過去と現在の違いがはっきりしていて大変納得しました。この話をこれから活かすためには、「人数が少ない」という現在の美深高校の特徴が、雰囲気や私たちの意識にどのような影響があるかを考え、「今の美深高校」の思い出を作ることが大事だと感じました。

あっという間に感じた1時間、最初は緊張していたけど最後には笑顔で学校に戻ることができました。園部さんの面白くて為になるお話が美高ヒストリアに掲載することができて嬉しいです。ありがとうございました。